平成 29 年度　八尾市立歴史民俗資料館運営委員会会議(概要)

開催日時：平成 30 年 2 月 2 日（木）10：30～12:00
開催場所：八尾市立高安コミュニティセンター　２階会議室
参加委員　学識経験者１名（欠席者３名）　市民代表２名　その他関係者２名
事務局：生涯学習担当部長、生涯学習担当次長・教育総務部文化財課職員(課長・課長補佐・係員)
指定管理者：（公財)八尾市文化財調査研究会（八尾市立歴史民俗資料館館長・係長）
（以下の案件について、委員長欠席につき、副委員長進行のもと、審議が行われた。）
＜事務局より説明＞
・平成 30 年度の事業計画、１．施設運営の方向性と方策２．八尾の魅力を発信するための活動について、は空調更新工事のための半年間の休館を含め説明
＜議事＞
副委員長：ただいまの報告のなかで、何かご意見等のある委員はおられますか。
Ａ委員：休館中の収蔵品の管理はどうなるのでしょうか。
事務局：特別収蔵庫内の温湿度管理が必要な収蔵品については移動して、温湿度管理のできる倉庫への保管を考えています。休館期間の周知については、市政だよりやホームページで行っていきます。
Ｃ委員：休館期間の予定は９月から２月末頃ですか。
事務局：現段階の予定ではそのように考えています。
Ｃ委員：倉庫で展示などはされるのですか。
事務局：倉庫での展示はできませんが、講座・講演会は例年とおり、隣の高安コミュニティセンターで行いますし、展示は休館中以外の期間に例年通り行います。
Ｃ委員：学校では１月に小学３年生が資料館で学習する時期にあたっているので、残念です。植田家などで見せていただくことになります。
副委員長：資料館の館蔵品を見せていただいたのですが、貴重な文書が未整理のままでたくさんありますので、古文書ボランティアは大変大切だと思います。ボランティアの方は増えていますか。
館長：古文書ボランティアには、目録作成と写真撮影があります。人数はあまり変わっていません。古文書整理もいろいろな段階があり、付箋を入れる、番号入れるなどの比較的簡単な作業は、20 人位で行っています。中身を読んでいく作業は古文書を読めないとできませんので、古文書講座を受けた方や、友の会に声をかけてもらい読める人にきてもらっていますが、限られています。大学院生でも古文書を読める学生は少なくなっており、読める人が少ない中で、何万点もの文書の目録を作成するのは大変です。市史編纂作業でも解読などされていますが、人海戦術で資料館、市史編纂作業などで解読し、整理していくしかないと思います。これからの何年もかかる時間のかかる作業となりますが、根気よくやっていきたいと思います。
Ａ委員　：お聞きしていますと古文書整理などは、専門的でボランティアでしていただくとしても、あまりにも大変な仕事ですが、謝礼などはしなくてもよいのでしょうか。
館長：現在、古文書ボランティアでは、一回きていただいたら 500 円相当の図書券をお渡ししています。これでも年間延べ 200 人位となると予算が嵩みます。限られた予算で調査していますので、なかなか難しい面があります。

事務局：古文書が読める学生が減っており、厳しい状況にあります。市史の近世編１も刊行しましたので、引き続き市史編纂事業とタイアップして、調査を進めていきたいと思います。

Ａ委員：河内木綿は八尾の特産品であったとされていますが、過去形でよいのでしょうか。東大阪市などでは現在も作られているようですが。

館長：実は本館で、資料館横の畑で河内木綿を栽培しており、種を他市に提供しています。宣伝があまり上手くできていない状態です。東大阪市などでは、人が集まるところや施設、観光協会などとタイアップしてうまく宣伝されています。

Ａ委員：河内木綿は、八尾も中心地ですから、もっと広めていければよいと思います。

館長：規模が大きいところでした方が目立つというご意見もいただいていますので、商工会議所やプリズムホールなどで、大々的に講演会などをやっていければと考えています。

Ａ委員：河内木綿は八尾の特産品とした方がよいのではないでしょうか。

副委員長：河内木綿は、産業としては終わっていますので、難しいと思います。

Ａ委員：テレビ番組などで八尾が紹介されたらどんなところとして紹介されるのか、興味深いです。河内木綿などをアピールしていければよいと思います。

Ｃ委員：小学校でも授業で河内木綿体験キッドなどや大和川の付け替えの大きな地図も借りていましたが、休館中も貸してもらえるのでしょうか。

館長：ホームページで紹介しているように、民具などお貸しできるものがあると思います。工事の進捗状況により館内で収蔵品などを移動させたりしなくてはならないので、最終的な設計が出ないとわかりませんが、貸出はできると思います。

Ｃ委員：資料館の職員は事務室でそのままおられるのですか。

館長：そのままおります。

Ｃ委員：リストにあるものはお借りできますか。

館長：休館中は展示をしていないのでお貸しできます。

Ｂ委員：半年休館するのであれば、館報などの刊行物を出す必要があるのでしょうか。

館長：休館しない半年間で通常通り、展示などの事業を行いますので、例年通り刊行いたします。また指定管理期間の５年目ですので、これまでの研究成果をまとめた刊行物も出します。半年休館しますが、調査・研究は行っており、講座・講演会・展示なども仕様書とおりに進めていますので、事務量は変わりません。他市からいただいた刊行物なども八尾の貴重な財産となるので館報に記録します。

Ｄ委員：観光協会も事業は増えていますが、４名体制で厳しい状況です。歴史民俗資料館も人員体制が少ないようで、ボランティアがいないと運営がスムーズに進まないのが本音でしょうか。「プロジェクト八尾探」などを進めていますが、観光協会としても資料館のボランティア組織を参考にしたいです。

館長：資料館もボランティアさんがいなければ、やっていけない状態です。古文書が読める学生も減っており、ボランティアさんの方が古文書を読める学力を持っておられる場合もあります。高年齢化は課題ではありますが、広い世代の方々に資料館を支えてもらいたいです。団塊の世代の退職された方を取り込んでいく必要があると思います。市民研究会、友の会は年齢層が高く７０代位で、市民研究会は６０～70 代の方が多くおられます。世代ごとに住み分けたかたちで、いかに人材を生かしていくかだと思います。古文書ボランティアなどの年齢層の高い方の中には、お礼の図書券は要らないとおっしゃる方もおり、 むしろ、生きがいを見つけたいという方が多いと思います。このような意味で、生涯学習の理念に沿ったかたちで進めています。

他市から時間をかけて通ってこられる 90 歳代の方もおられますが、いつもとても楽しそうにされています。このようなボランティアの方が、元気に上手く資料館とつきあっていただく、資料館としてもボランティアさんにお手伝いいただければありがたいというようなかたちが良いと思っています。

Ｄ委員：資料館のボランティア活動では外で調査なども多いと思いますが、危機管理についてはどうされていますか。

館長：まち歩き研究会は、市内を江戸時代や明治時代の地図を持って、古道を探すなどの活動をしているため、山手の道を行くこともありますので、資料館のボランティアは 4 か月間の養成講座を行い、安全に調査に参加できるよう、また、文書の扱いなども丁寧に破損しないように取り扱うなどの研修を行っています。常に初心に戻って丁寧に作業できるよう、研修を行い、進めています。

副委員長：他にないでしょうか。なければこれで委員会を閉会いたします。

資料館・事務局：貴重な意見をありがとうございました。